## さつき盆栽

佐藤　幸一郎さん

### 2カ月の花を咲かせるために10カ月の努力が必要です

佐藤幸一郎さんは40代半ばころからさつき盆栽を始め、自分でいろいろと工夫しながら、約35年もの長い年月の間、たくさんの盆栽を育てあげてきました。80歳となった現在でもさつき盆栽作りに情熱を注いでいます。

さつきはおもに5月の中旬に花を咲かせ、2ヶ月ほど楽しむことができますが、そのために、毎日、木の状態を管理していかなければなりません。

「花をつけている期間は、わずかですが、そのためには常に木を大事にしなければなりません。例えば、今の時期は2、3週間に1度あるかないかの冬の晴れ間をみて、約80鉢もある盆栽に小屋の中で、たっぷり水を与えます。乾燥を防ぐ気配りと細やかな手入れが必要なんです」。

### 父親が大事にしていた花

佐藤さんがまだ、若いときに、自宅の窓際には父親が大切に飾っていたきれいな花があったそうです。ところが父親が病気で倒れてしまい、その花を世話する人がいなくなってしまいました。そこで佐藤さんが代わりに世話を始めたのですが、花についてなにもわかりませんでした。その花を枯らせてしまっては大変だと思い、父のようなきれいな花を咲かせることを目標に、勉強に明け暮れたそうです。

### 木と対話しながら新たな命を吹き込む

さつきの盆栽には、最初は鉛筆のような細い小さな木から、やがて大きく立派な、あふれるような美しい花を咲かせる木へ成長させていくという楽しみがあります。

「人前に出せるようになるまでには約5年もの年月がかかります。きれいな花を咲かせるためには、決して焦ってはいけないし、じっくりと時間をかけなければなりません。自分の魂を込めている木が、日々少しずつでも成長していく姿を見るのは、子どもや孫の成長を見守っていく喜びにも似たものがあります」。

盆栽は、木と心の中で対話をしながら新たな命を吹き込んでいく作業だと佐藤さんは思っているそうです。

### 生きててよかったと思える瞬間を求めて

「時間と手間をかけて丹念に育てあげたさつきがきれいな花を咲かせ、それを見た人に「いいですね、素晴らしいですね」などと言われると、何事にもかえがたいようなうれしさ・喜び・充実感を感じます。

その花を見た人の心が和んだり、気持ちよく幸せな気分になってもらえれば、自分の苦労も一気に吹き飛びます。生きててよかったと思える瞬間がそこにあります」。

### 取材を終えて

今回、取材にご協力くださったのは5人の職人さんでしたが、どの人の言葉も一言一言が心に響きました。それは表面的ではない、確かな経験に基づいた本物の言葉でした。

職人が機械に取って代わられる時代。時代の流れと言ってしまえばそれまでですが、確かな技術を持つ職人が、活躍する場を失い、次々といなくなっていく様には寂しさを感じます。

かつて、まだ、ものが人の手によって作られていた時代、職人は地域社会になくてはならない存在でした。地元の職人が作ったものを地元の人が使う。地域の中で、職人と住民が支え合う関係が成立していました。それは、当時、流通の仕組みや機械による生産が未発達だったからという理由だけではなく、昔の人は地域社会の成り立ちを理解し、「人を大事にする心」を大切にしていたのだと思います。

食の世界では、地産地消やスローフードなどの言葉がでてきたように、地元のものを地元で消費しようという動きが生まれています。

今回、紹介できたのはたった5人でしたが、能代には、まだまだ確かな腕を持った職人さんがいます。

地域で職人を支えるとまではいかないまでも、この特集が、少しでも地域社会を考えてみるきっかけになれば、大変うれしく思います。